

令和元年度松阪市環境パートナーシップ会議全体会 議事録

日 時：令和 2 年 1 月 30 日（木）午前 10 時～午前 11 時 45 分

場 所：松阪市産業振興センター3階 研修ホール

出席者：26 会員（委任状提出会員 28 名）、オブザーバー 1 名、事務局 5 名

市民 9 名

朴恵淑（会長）、天野雅仁、大北芳秋、小出勝次、田中茂、
谷口寿、中北喜彦、三口貴久代、山手鈴江

市民団体 6 団体

碧川の自然・環境を守る会、嬉野アイリス、
たべる・つなぐ会松阪、松阪市自治会連合会（副会長）、
松阪・松名瀬海岸再発見プロジェクト、三雲アイリス

事業者 11 社

愛知機械工業株式会社、株式会社大戸、シャープ株式会社、
生活協同組合コープみえ、セントラル硝子株式会社、
株式会社第三銀行、東邦ガス株式会社、ニプロファーマ株式会社、
松阪飯南森林組合、松阪香肌商工会、松阪農業協同組合

オブザーバー 1 名

三重県松阪地域防災総合事務所 環境室 室長（浅沼利幸）

事務局 5 名

環境課長（荒川浩和）、政策係長（山路裕規）
政策係主任（前川嘉紀）、政策係員（土谷健太）
政策係事務員（後藤えみり）

<議事>

事務局：

皆様、おはようございます。本日は松阪市環境パートナーシップ会議全体会のためにお忙しい中、お越しいただきまして誠にありがとうございます。定刻となりましたので、ただいまから令和元年度松阪市環境パートナーシップ会議全体会を開催いたします。本日の出席状況でございますが、出席者 26 会員、委任状の提出によるものが 28 会員、合計 54 会員となり、会員総数 58 会員に對しまして、過半数に達しておりますので、本全体会が成立していることを報告させていただきます。開催にあたりまして、松阪市環境課長・荒川よりご挨拶申し上げます。

※荒川環境課長から挨拶

事務局：

続きまして、本会議の会長であります、三重大学教授朴恵淑よりご挨拶申し上げます。

会 長：

2030年までに世界の全ての方々が取り組むべきだと言われるSDGs、いわゆる持続可能な開発目標というものがあります。17個ある目標のいちばん最後に「パートナーシップで目標を達成しよう」ということが掲げられています。環境パートナーシップ会議がある松阪市は素晴らしいと思います。なにより、これは市だけでは出来ないことであり、県や企業、そして松阪市民の力でここまでこられたなと思っております。令和元年度に実際に関わっていただいた方から、活動報告をいただき、令和2年度にどのように発展させていくのかを事務局から活動計画として提案いただきます。本日は出席者の皆様から忌憚のないご意見をいただきながら進めていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

事務局：

それでは、議事に入らせていただきます。規約の10条第2項の規定により議長は会長が務めることとなっております。朴会長、よろしくお願いいたします。

会 長：

よろしくお願いいたします。それぞれのプロジェクトのリーダーから資料に基づいて報告をいただき、皆様からご意見、ご質問を承ります。それでは事項書1の令和元年度の活動報告についてよろしくお願いいたします。

事項1：令和元年度の活動報告について

※各プロジェクトのリーダーから活動報告

会 長：

質問等がありますか。

会 員：

なし。

会 長：

これからも三重中学校、高等学校の生徒にいろんなところで協力していた

だくことは可能でしょうか。

会 員：

今までは科学技術部が主に関わっていましたが、生徒会としても関わりたいというような話が出ています。地域と学校で連携してやっという子どもたちも主体的に言っておりますので、ぜひ今後ともよろしく願いたします。

会 長：

ありがとうございます。若い方が世代間交流を行いながら地域に根差した活動をしていくことは、松阪市にとって明るい将来を期待できるのではないかと思います。先生も大変だとは思いますがよろしく願いたします。他にはいかがでしょうか。

会 員：

なし。

会 長：

それでは、事項書 2 に移らせていただきます。令和 2 年度の活動計画について、事務局から願いたします。

事務局：

事項書 2 に入る前に、啓発活動プロジェクトから説明いただきましたとおり、今年度のパートナーシップ会議の会員として 2 会員加入がございますので、ご紹介させていただきます。令和元年 5 月に市民団体会員として「手芸クラブ」の高瀬様にご加入いただきました。令和元年 6 月に市民団体会員として「たべる・つなぐ会松阪」の堀口様にご加入いただきましたので、本日ご報告申し上げます。なお、高瀬様に付きましては本日ご都合により欠席されておりますのでご挨拶は省略させていただきます。では、本日ご出席いただいております堀口様、一言ご挨拶を願いたします。

会 員：

改めましておはようございます。私、たべる・つなぐ会の代表をしております、堀口と申します。本日は貴重なお時間の中、この席にご招待いただきましてありがとうございます。今後ともよろしく願いたします。

会 長：

ありがとうございます。

事項 2：令和 2 年度の活動計画について

※事務局より説明。

会 長：

ありがとうございました。審議に入る前に私から 2 点確認したいことがあります。一つ目は皆さんもニュースなどでご存じだと思いますが、今年 7 月から全国一斉にレジ袋有料化が始まります。私たちは 10 年前から 1 市 5 町（大台町、大紀町、多気町、玉城町、明和町、松阪市）で連携し、もってこに！マイバッグ（レジ袋有料化）検討会を企業とのパートナーシップで立ち上げています。これは、有料で販売されたレジ袋の代金から実費を引いた金額をレジ袋収益金という名前で検討会に寄付をいただいています。この収益金をもとに、緑のカーテンの苗を配布するなどいろいろなことをやってきました。今年の 7 月から全国規模でレジ袋の有料化は決まっていますが、1 枚いくらになるのか、収益金が生じるのかどうかもわかりません。それぞれの企業がどのような関与をしていくのかが見えていない中で、今までいただいていたレジ袋収益金が今後どうなるのかが不安に思います。このことについて、事務局から補足がありましたら、後ほどいただきたいと思います。二つ目は啓発活動プロジェクトのことについてです。これからは、啓発活動プロジェクトという大きな括りの中で、協力できる皆様に今までやっていた省エネや SDGs、あるいは松阪市のいろんな課題などそういったことを考える活動をした方がいいのではないかと思います。最後に、環境フェアプロジェクトについてです。環境フェアはパートナーシップの成功事例です。私たちも頑張りますが、ベルファームで企業と一緒にできるということは、まさにパートナーシップの賜物ではないかと思っていますので、これからもこのような友好関係を築いていただき、若い人たちも来られるような形で、ますます発展できるのではないかと思います。余計な心配だと思いますが、来年から少し変わるかもしれないレジ袋収益金のことで何かありましたら事務局からお願いいたします。

事務局：

先ほど会長から本年 7 月から始まるレジ袋有料化についてお話が出ましたが、すでに経済産業省からガイドラインがまとめられております。これによると 7 月以降のレジ袋の価格設定については、基本的には事業者が自ら設定できるとなっておりますが、1 枚あたり 1 円未満だと有料とは認められないと聞いております。また、ガイドラインでは各団体において従前の制度であるか今後整備

される制度であるかにかかわらず、プラスチック製買物袋の排出抑制の促進のために、本制度の上乗せを含めた更なる取り組みが行われること妨げるものではないということが明記されています。そういったなかで、もってこに！マイバッグ（レジ袋有料化）検討会の総会が年度末に開催される予定であることから、そこでも何らかの議論があるかと思えます。ただし、令和 2 年度については、今年度と同じぐらいの収益金が入るということを事務局である玉城町から聞いておりますので、特に問題はありませぬ。また、検討会の動向については、緑のカーテンプロジェクトの中で話をしていくことになると思えます。また、啓発活動プロジェクトに関しましては、先ほど朴会長がご説明していただいたような形をお願いしたいと考えていますので、よろしくお願ひいたします。

会 長：

ありがとうございました。緑のカーテンプロジェクトは令和 2 年度では例年通りに行うということでありましたので良かったと思えます。ほかにご意見はありますか。

会 員：

先ほど事務局から令和 2 年度の各プロジェクトの活動計画について説明がありました。数年前から参加させていただいていますが、内容的にも省エネ活動プロジェクトと啓発活動プロジェクトの統合が必要であることや、緑のカーテンと環境フェアのようなイベントの部分をイベントプロジェクトとして、2 つのプロジェクトとして進めてはどうかということを進言をしたこともあります。緑のカーテンプロジェクトや環境フェアプロジェクトは存続が非常に望まれるところです。そのほかにも、水まきやごみ拾いの活動がありますので、そういった活動をイベントプロジェクトとして、いろんな方が参加出来るような方向にしていだければと思えます。啓発活動プロジェクトはここにいる皆さん以外は何をしているか分からないと思えます。なので、啓発活動プロジェクトを市民や事業者の関心がある SDGs を推進するプロジェクトにしてはどうでしょうか。啓発活動という言葉はあやふやで分かりにくい。現在、啓発活動プロジェクトに参加しているメンバーは市民が数名で企業の方の参加はありません。SDGs 推進プロジェクトとして、市民団体や事業者の取り組みを発信することで新しい会員の加入や PR に繋がりますので、名称自体を変更するというのを提案させていただきたいと思えます。また、環境フェアなども SDGs の目標についてブースで PR 出来るような形になれば発展していくと思えますので、検討をお願いします。また、省エネ活動プロジェクトと統合するということですが、省エネの啓発についても SDGs に含めて活動していければと思えますの

で、ぜひよろしく申し上げます。

会 長：

ありがとうございます。今の提案について皆さんと考えたいと思っています。今、正に **SDGs** という時代を迎えています。が、**SDGs** の認知度が低いということもありますので、令和 2 年度では啓発活動プロジェクト (**SDGs**) という名称に変更して **SDGs** に取り組むということであれば、市民の認知も高まってくるのではないかと思います。また、省エネのことについても **SDGs** の 17 ある目標のうち、7 番目がエネルギーのことなので、**SDGs** の中に省エネも含まれています。ただ、パートナー通信のことなどもあると思いますので、折衷案として啓発活動プロジェクト (**SDGs**) とするのが、1 つの考えなのかなと思います。今、思いつきましたが、環境フェアで部屋やテントを用意して、1 つ **SDGs** に関することを企画しておけば、プロジェクト間の繋がりが出来て、一気に松阪市が **SDGs** のトップランナーということになれるのではないかと思います。とりあえず、令和 2 年度は啓発活動プロジェクトで **SDGs** を頑張るといような感じで考えたかどうかと思います。皆さんのご意見はいかがですか。

会 員：

現在、啓発活動プロジェクトに参加している者としては、**SDGs** ということよりも、今、環境パートナーシップ会議がやっていること自体が **SDGs** に含まれていると思っています。それぞれがいろんな名称を持っていますが、あくまでも **SDGs** が主体であってその中で環境フェアや啓発活動があり、企業や市民団体がその中に含まれているものというように理解しています。そういったことから考えると、現在の松阪市の人口に対して、会議への参加者が少ないのではないかと、もっと多くの方に参加していただく必要があるんじゃないかというように思います。われわれ啓発活動プロジェクトでは会員を募る活動をしており、市民や企業に働きかけるような活動をしていくことに広げていかないとなかなかメンバーが増えないんじゃないかと思っています。もっと参加していただける企業や個人、市民団体を増やすために次年度でも取り組んでいきたいと考えております。

会 長：

こういった活動はネーミングが大事です。ほかの方の意見も聞いてから決めたいと思いますが、いかがでしょうか。

会 員：

自分が前から教えている生徒たちに SDGs のことについて聞くともちろん認識してくれている子が多いですが、初めて会う子に聞いてみると知らない子が多いです。みんな必要だということは認識していると思うので、持続可能という言葉はどこで入れておいた方がいいのではないのでしょうか。子どもたちからすると、SDGs というワードだけだと厳しいかなと思います。

会 長：

SDGs について、少し説明がいるのではないかというような意見でした。地域で頑張ってる皆様はいかがですか。

会 員：

この SDGs というのは全体的なことなので、この会としてはやはり環境という言葉を入れた方が良いでしょう。

会 長：

SDGs については私も学校で声が枯れるほど教えているにも関わらず、分かっているようで分かっていない人が多くいます。SDGs は環境や経済、世界の文化など、全てのバランスが取れた持続可能な社会をつくるということで、いろんなものが入っています。市民の力、企業の力、行政の力をあわせながら、松阪を本当に住みやすい幸せなまちにすることが大事です。例えば、環境フェアという場で SDGs のことについて講演をするのであれば、私が責任を持って協力します。内容についても SDGs カードゲームという分かりやすく遊びながら SDGs が分かるようなものにします。啓発活動プロジェクトのネーミングをいきなり SDGs としてやっていくのか、事務局はどうでしょうか。

事務局：

啓発活動プロジェクトの中で名称の検討をしていくことも 1 つの案としてあるのではと思います。SDGs は環境だけでなく貧困のことなど、いろんなことを総括したような素晴らしい考え方ですが、SDGs の認知度が低いということで、資料 5 の啓発活動プロジェクトの活動内容に「自主学習の推進等を行う」という記載を入れております。SDGs の学習というのは個人会員や団体会員だけでは難しいと思いますので、そういった学習も含めてやっていったらどうかと思います。

会 長：

わかりました。活動内容の説明として、SDGs について「考える」や「学習

する」としながら、名称は啓発活動プロジェクト（SDGs）という形でやっていくということはどうでしょうか。皆様いかがでしょうか。

会 員：

先ほども話をさせていただきましたが、SDGs は知らない人が多いということなので、文言の中に入れるなど表に出るような形でないとスタートが切れないと思います。

会 員：

SDGs は最近耳にした人が多いと思いますし、17 項目を見るとテーマが大きすぎて、捉え方が分かりません。これから勉強していくという意味で、SDGs について講演をしていただきたいですし、関連の方に協力をお願いをしようと思っていたところを会長自ら協力するとおっしゃっていただいて、非常に有り難いです。パートナーシップ会議の中でまず SDGs を学ぶところから始めたいと思いますので、SDGs をタイトル名、プロジェクト名に掲げることで、事業者や個人の方に興味を持っていただく事ができます。環境パートナーシップ会議に入れば、企業としても PR できるという会議にしていきたいので、企業の皆さんに啓発活動プロジェクトへ加入していただきたいと思います。ここにいらっしゃる事業者さんも担当が変わって違う人が参加されても結構ですので、ぜひそういう形で SDGs のことを勉強しながら実際にやっていることにあてはめる事が出来ると思います。そういうことを勉強できる会にしていけたら、もっと会員も増えると思いますし、どんどん前向きな意見も出てくると思います。SDGs という言葉を入れていただければ、これからの 30 年に向かってやるべきことが明確になるとと思いますので、ぜひよろしくをお願いします。

会 長：

ありがとうございました。皆様の意見を取り入れつつ、案を考えました。SDGs が分からない方のために、妥協案として名称は啓発活動プロジェクト（SDGs）とし、資料 5 の活動内容の 3 行目のところで、「国連持続可能な開発目標（SDGs）の学習などを行う」とするのはどうでしょうか。また、環境フェアで SDGs について勉強ができる場を皆様の力で作っていただき、今年 9 月に一回大きく勝負を賭けてみたいと思います。意見がありましたら承りますがいかがでしょうか。

会 員：

環境フェアで SDGs の講演というお話が出ていますが、ベルファームでは難

しいのではないのでしょうか。健康フェスティバルとかそういうところの方がいいと思います。

事務局：

環境フェアで環境課がいつも使わせていただいているレクチャールームという使用人数40名ほどの屋内の部屋がありますが、ほかはこの部屋より狭いくらいの広さの部屋しかありませんので、講演ぐらいのものになると場所がありません。

会 長：

環境フェアは毎年数千人の来場者がいらっしゃるのでどうかと思いました。400人くらい入る部屋はありませんか。

事務局：

環境フェア自体がベルファームのくるくる環境フェスタというイベントと同時開催でやっており、芝生広場ではベルファームさんが使用しておりますので、難しいです。

会 長：

いろんなことを考えて一番良い時期に一番良い場所を考えることにしましょう。

会 員：

グレタさんは「私たちの世代より未来を考えてよ」と言いました。ネーミングのことですが、アルファベットのような感じで言われたら普及も難しいなと思います。未来のことを考えるためにSDGsの17項目があります。今、いろんな問題が世界にあり、それに目を向けている人もたくさんいると思いますが、未来に目を向けて考えてくださいという趣旨だと思います。無関心な方が多いので市民の方をもっと惹きつけるようにしないといけないと思います。会員や動いている人が少なく大変だということが問題だと思いますが、省エネや環境、貧困など、いろいろな問題がありますが、未来をもっと大きくした形で考えていき、発信する場が必要であると思います。

会 長：

ありがとうございます。環境フェアにこだわらないでやるのであれば、人を集めるのは大変なので、講演会やカードゲームを交えて、子どもたちも主役に

なって皆で考える持続可能な松阪、未来の松阪ということをテーマで考えないといけません。ネーミングについては、啓発活動プロジェクト（SDGs）として、SDGs を勉強する中でいろんな人の意見をいただいて令和 3 年度の形を皆で決めていけばいいと思います。松阪市の総合計画や環境基本計画でも SDGs に触れていますでしょうか。課長の意見はどうでしょうか。

事務局：

第二次環境基本計画の中で、コラムという形で SDGs は入れております。

会 長：

計画期間はいつまででしょうか。

事務局：

2018 年から 10 年間の計画となっています。

会 長：

SDGs をコラムで扱っているのですか。

事務局：

先ほどからもお話に出ていると思いますが、SDGs の考え方は様々な部門に広がっています。各課で環境にやさしい施策をあげていただき、計画に盛り込んだ末にできたのが、今の第二次環境基本計画です。計画を策定していく中で、SDGs という考え方は大切であるという話も出ており、今回はコラムという形で記載しました。

会 長：

これから計画の見直しもあると思いますので、そういうときにパートナーシップ会議が対応できるようになればと思います。

会 員：

SDGs のことをわかっているようでわかっていません。どんなことか説明してほしいと言われても、何も伝えられないので、簡単に説明してください。

会 長：

2000 年の国連サミットでミレニアム開発目標（MDGs）というものが合意されました。これは、国際社会の新しい共通目標として、貧困や飢餓、差別の撲

滅など 8 つの目標を 2015 年までに達成するために採択されたものです。2015 年までに達成すべき目標を掲げていた MDGs は、一定の効果を上げることに成功しましたが、引き続き目標を設定し、発展途上国、先進国を問わず解決すべき課題を明示する必要があるということで、新たに 17 の項目を目標としたのが、SDGs です。これは「持続可能」を意味する Sustainable（サステイナブル）の S、「開発」を意味する Development（ディベロプメント）の D、「目標」を意味する Goal（ゴール）の頭文字をとって、複数形の s をつけたのが SDGs（エスディージーズ）です。

会 員：

ありがとうございます。

事務局：

名称につきましては仮称的な位置づけということで、啓発活動プロジェクト（SDGs）というようなことで来年度はさせていただきたいと思います。そして、来年度活動していく中で必要に応じて、令和 3 年度以降の名称等も検討していければと思います。また、資料 5 の啓発活動プロジェクトの活動内容のところで、「広報誌の確認作業や SDGs 等の自主学習の推進などを行っていき、持続可能な活動を行っていく」といった内容に訂正したいと思いますが、どうでしょうか。

会 長：

事務局から提案が出ましたがいかがでしょうか。

会 員：

なし。

事務局：

啓発活動プロジェクト（SDGs）という名前で令和 2 年度はお願いしたいと思います。特に SDGs はいろいろと大きなものになりますので、まずは会員自ら学んでいくということが必要かと思います。活動内容のところでは「SDGs などの自主学習の推進などを行い、持続可能な活動を行っていく」というような内容にしたいと思いますが、いかがでしょうか。

会 長：

SDGs は横文字ばかりで説明がないので、国連持続可能な開発目標（SDGs）

にすると、何かあるということが分かりやすいと思いますので、加えていただいでよろしいでしょうか。一度、私の方から読み上げさせていただきます。2行目以降のところ「また、広報誌（環境パートナー通信）の確認作業や国連持続可能な開発目標（SDGs）の学習の推進を行う」とするのはいかがでしょうか。

事務局：

提案のとおり、記載を訂正させていただきます。確認ですが、「広報誌の確認作業や国連持続可能な開発目標（SDGs）の学習の推進を行う」ということでよろしいでしょうか。

会 長：

皆さんはいかがでしょう。

会 員：

なし。

会 長：

ありがとうございました。これで、皆様から令和 2 年度における環境プロジェクトの活動計画が了承されたということで進めさせていただきます。最後に事項書 3 のその他ですが、事務局から何かありますでしょうか。

事項 3：その他

事務局：

事項 2 の令和 2 年度の活動計画につきましては一部変更がありましたが、おおむねご承認いただいたということで、来年度以降の活動についてもプロジェクト制で進めて参りたいと考えております。その他についてですが、早速ではございますが、来年度の活動に向けてプロジェクトメンバーの募集を行いたいと思います。申込用紙は 2 月 14 日までに事務局の方までご提出いただきますようお願いいたします。

会 長：

今提出できる方は回収してもらえますか。

事務局：

受け取らせていただきます。郵送や FAX、メールでも結構です。

会 長：

その他に何かありますか。

事務局：

事務局からは以上です。

会 長：

会員の皆様からお知らせ等ありましたら、承りますがいかがでしょうか。

会 員：

なし。

会 長：

おかげさまで12時前に終わることができました。松阪市を愛する者としていろんなチャンスは絶対逃してはいけないと思っています。これだけの皆様の熱い熱意で支えられる松阪市だからこそいろんなところでトップランナーでいてほしいなという思いがあったので、市の皆様に困らせるつもりはありませんでしたが、いろいろ発言させていただきました。縦割りが多いと言われている中でパートナーシップを組んでやっていくには横の繋がりが大事です。新しい子どもたちが松阪のために頑張っていくために皆様の知恵を提供するのがこのパートナーシップ会議でもありますので、そういうようなところについて協力いただければと思っています。これからも開催回数はそんなに多くはありませんが、一緒になってやっていくことがパートナーシップの成功事例になりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

事務局：

皆様、本日はありがとうございました。令和2年度の活動においても、皆様に参画していただきながら進めてまいりますので、引き続きよろしくお願ひ申し上げます。以上をもちまして、本日のパートナーシップ会議全体会を終了いたします。最後に朴会長からお預かりした講演会のチラシを配布させていただきます。ありがとうございました。